

マイスターだより

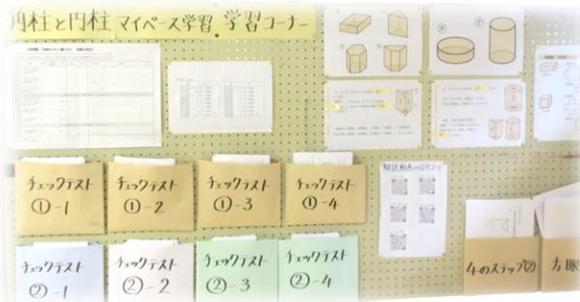
川西町立小松小学校
令和8年2月25日（水）No.21
文責：情野 夏美

3回目のマイペース学習を終えて

5年算数「角柱と円柱」で、今年度3回目のマイペース学習を実施しました。様々な学校の実践や今までの反省を活かし、1、2回目のやり方から少しグレードアップして行ってみました。準備や教材研究には時間がかかりましたが、授業中は、じっくりと児童の様子を見取ることができ、1、2回目と比べてかなりゆとりがありました。3回目のマイペース学習の成果と課題を掲載しましたので、ご覧ください。今回は、成果が多かったように感じています。資料等や授業を終えた児童のアンケートも回覧しますので、ご覧ください。

3回目のマイペース学習の特徴

- ・コース2つから1つ選ぶ。
- ・計画を自分で立てる。
- ・答えが用意されている。
- ・誰とどこ（教室内）で行ってもよい。
- ・解説動画を見ることができる。
- ・掲示物を参考にできる。



新しく習うことを書いたものや答えの掲示板

【成果】

- ・コースを2つ設けたことで、より自分に合った学習内容とペースで学習を進めることができていた。1、2回目よりも意欲的に学習に取り組む児童が多かったように感じる。また、マイペース学習のやり方が浸透してきたのか、黙々と進める姿が見られた。インフルエンザで休んだ児童以外は、7時間という時間の中で全ての学習と復習まで終えることができた。

2つのコースの違い

ピタゴラスコース…教科書に即したスモールステップ
(標準)

パスカルコース…押さえたいポイントを絞った内容で
選択問題(優しい)

- ・好きな場所で、誰とでも行っていいこととしたら、各々が



- その日の気分や調子に合わせて選択している様子も見られた。分からない児童は、友達に聞いたり、先生に助けを求めたりして熱心に取り組むことができていた。
- 上の記述に書いたように、授業では、児童の様子を見取ることに集中できたので、つまずきや実態を把握することができた。児童が自分で答えを見て丸付けをしていたことで、教師側はかなりのゆとりをもって見取ることができた。
 - 手引きに計画日、達成日を設けたことで、自分の今の状況を児童自身が把握することができていた。児童は、進度の目安になっていた。
 - 早めに終わった児童は、「チャレンジ学習」から選択して取り組んでいた。(eライブラリやプリント学習など)
 - 2回のノートチェック&チェックテストを設けた。これにより、授業後の負担が減ったうえに、全児童の理解度や到達度を授業中に把握することができた。
 - 教科書のQRコードに飛べるようにリンクを張った。問題を解くのに非常に効果的なものだったので、児童の助けになっていた。
 - 教室前に、展開図になる立体を置いていたことで、それを使って学習を進める姿も見られた。



【課題】→対応策、解決策

- 2つコースを作ったので、事前準備が大変であった。デジタル教科書を参考にロイロノートを作ったが、時間がかかった。
 - 今後、実践が増えていけば、教材を有効活用でき、作成する時間が省ける。デジタル教科書の内容をコピーできるので、有効に活用していく。
- 低位の児童や進度が遅い児童の学習をどのように進めさせていくかを考えるのが難しかった。
 - ノートに、発問や問題を書いてあげたり、問題を貼ったりして、補助ノートを作る。
 - スモールステップ全てを学習させるのではなく、押さえないポイントを絞って学習させる。
- 学校のWi-Fiの状況が悪く、ロイロノートが繋がらず、何もできない場面があった。
 - 教科書を頼りに学習を進めさせた。ICT活用が進んでいる中で、Wi-Fiの接続がいかに重要かが分かった。